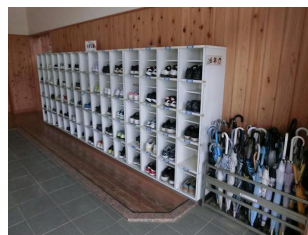




御船小 4つの「あ」その2 ～あとしまつ～

今回は4つの「あ」その2「あとしまつ」についてです。「あとしまつ」とは、使った道具などを元の場所にもどす、片づけることですが、今回は、「くつをそろえる」ことについて話します。

私が御船小学校に来て感心したことの一つに、毎朝子供たちが使うくつ箱のくつがそろっているということです。右の写真は4月28日（月）の6年生の下駄箱ですが、どの学年のくつ



もかかとがそろっていました。先生方の指導もありますが、昨年度は子供たちから主体的にそろえるよう呼びかけやチェックを行っていたそうです。

ご家庭ではどうでしょうか。学校と同じように、くつを脱いだら、かかとをそろえてならべているでしょうか。それとも、向きがバラバラでそのままほうっていることが多いでしょうか。私自身二人の子供を育ててきましたが、小さい頃から玄関ではつま先を玄関側に向け必ずそろえるよう母親が子供によく言っていました。小さいときに身についたことは大人になっても習慣として無意識のうちにできるようで、すでに成人している子供たちですが、感心していることの1つです。

では、なぜくつをそろえるのでしょうか。私は、くつをそろえることには、次のような大事な意味があると思います。まず、くつをそろえると、次に使うときにすぐに見つけられて、時間をむだにしません。それから、くつをそろえることで、まわりの人に「ちゃんとした人だな」と思われます。きちんとそろえられたくつを見ると、「ていねいな人だな」と思うものです。そして一番大事なのは、くつをそろえると、自分の心もすっきりし、心がそろうことです。小さなことでも気をつけていると、「ちゃんとできた！」と気持ちが良くなります。

子どもたちが靴をそろえることは、規律や整理整頓の大切さを学ぶだけでなく、自分自身の行動をきちんと見直すきっかけともなります。また、この習慣は家庭でも学校でも周囲への思いやりや心地よい環境づくりにつながります。

ぜひご家庭でもこの習慣を実践していただければと思います。たとえば、玄関で脱いだ靴をそろえる際に「きれいにしてくれてありがとう」などの声かけをしていたくことで、子どもたちの行動に対するポジティブな認識が育まれます。小さな行動から規律やマナーが芽生え、それが大きな成長へとつながることを願っています。

